

世代を超え、想いを一つに行動していこう！

横内地区の概要

- 2023年1月時点で、人口約8,200人、世帯数約3,700戸、高齢化率32.5%（市平均28.7%）、後期高齢化率18.5%（市平均15.5%）
- 1小学校、1中学校で横内連合自治会（6単位自治会）と横内団地連合自治会
- 1960年代に県営横内団地が整備され、旧集落市街地と新市街地が混在し、外国籍の方たちも多く居住

地域活動の歩みと「横内まちづくりを考える会」の立ち上げ

2002

小・中学校の週5日制移行に対応するため、“地域みんなの学び場”として地元有志（サポーターと呼ぶ）で自主運営する「横内マイタウンスクール」開設

→ 地区内に公園・広場がないため、公民館、小・中学校、子どもの家、休耕地など地域ストックの利用工夫へ

2010

小・中学校、地元有志による「横内ふるさとカルタ」を作成、大人のなかまづくりとして田植え前の田んぼで「マイタウンBBQ」スタート

→ 世代や団体・役職を越えた緩やかな意見交換の場づくりへ

2015

休耕地を活用したスマイル農園開設

→ 前年に開設された「町内福祉村」のボランティアメンバーを中心に運営横内マイタウンスクールとコラボして、多世代ふれあいの場へ

2016

ふるさとカルタをベースにオリジナルソング「YOKOUCHI!」を作成し、地域行事での演奏・ダンスへと展開

→ 地域の一体感をより高めようと“わがまち”意識の醸成へ

2021

コロナ禍でイベントが中止になる中で自分たちが住んでいる地区の良いところを感じてもらおうと自治会が中心になり「ウォークラリー」を実施

→ 地域活動を工夫し、これからの“わがまちづくり”を考えるきっかけへ

2022

「横内まちづくりを考える会」発足

→ 公民館だより、回覧板、ちいき情報局などを活用して、年齢・職業・団体役員経験などを問わず、有志を募集！



「横内まちづくりを考える会」の活動とは？

メンバー構成

[30～70代 / 男女15名]

各種地域活動経験者有志（自治会、PTA、青少年指導員、教育力ネット、民生委員児童委員など）
及び地域行事参加者有志

活動内容

1

1回／月 定例の緩やかな意見交換の場

- LINEを活用して情報交換／共有
- 多言語対応のオリジナル地域サイト「よこうち愛」での情報発信
- 必要に応じて飲食しながら「オン+オフの緩やかな場」づくり



yokouchi-love.com

[みんなの笑顔をつなぐ合言葉“よこうち愛”]

2

これからの地域活動・行事へのアイデア提案・試行へ

- 「これからの横内まちづくりと地域活動を語ろう！」ミーティングの企画
- 上記の意見交換でのアイデアをもとに具体的企画を検討し、関連する地域活動とのコラボや新企画の試行・実践化の取り組み開始
- 公民館や町内福祉村に加えて、多世代が集まれる新しい拠点づくりを検討中
- 地域を知ってもらうための「横内ふるさとマップ」を作成

〈 試行例 〉

- ① 「YOKOFES2022」での「みんなの声聞かせてポストイット！」
- ② 横内小学校コミュニティスクール／まち探検
- ③ 地元御霊神社例大祭「御霊さんに集まろう！」の企画・実施
- ④ 多世代交流の「スマイルウォークラリー」への協力



横内ふるさとマップ

これからの 横内まちづくりと 地域活動を語ろう！ ミーティング

横内連合自治会が実施した「暮らしと地域活動に関するアンケート」の結果をもとに、参加者を公募してワークショップ形式のフリーミーティングを実施した。
(参加者30名)

グループごとに「これからの地域の目標や新しい取り組みのアイデア」をポストイットに書き込み、まとめていく

住民アンケートの結果を全体で共有した後▽



したいこと、できること、
だれと一緒に……
を整理する

自治会関係者や各種団体役員も参加しており、これからの活動についての気づきや地域一丸となって取り組む課題とテーマを発見・確認できた

意見交換の結果を
グループごとに報告



ミーティング総括

今後の地域活動への地域のみなさんの知見

✓ 田園環境を活かした地域づくりを目標

✓ 多世代サポーター制度の検討、
育成に向けた場づくり

✓ ごみステーション・バス停・神社・細い
水路などの定期清掃と継承の工夫

✓ 多様な情報ツールを活用した発信・周知

✓ 若者、外国籍の方など多様な文化交流の
場を設け、食・生活・考え方の相互理解

✓ 子どもや若者の声を活かす子ども会議の
新設、子どもが参加しやすいイベントの企画

活動事例 1

「YOKOFES2022」での「みんなの声聞かせてポストイット！」

ねらい

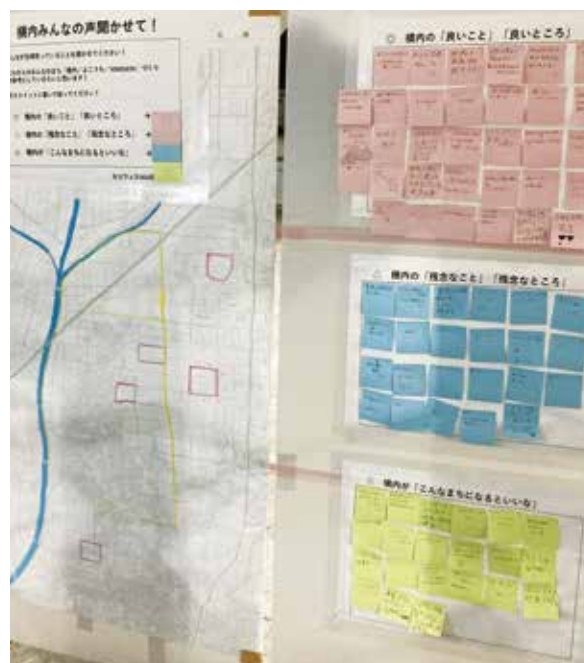
横内マイタウンスクール20周年を記念して、体験教室をはじめ地元の小・中・高・大人出演の「ヨコウチフェスティバル（YOKOFES2022）」開催に合わせ、自分たちが住む地域・まちのことを考え、気軽に声を聞けるように企画しました。

実施のポイント

- ① 各バンド演奏のMCや声掛け・説明者は中学生・高校生に依頼
※同世代、親世代も立ち寄る



- ② 住んでいる地域の白地図で地域全体を見てもらう
※「横内ふるさとカルタ」で読んだ横内らしさの場所を併せて示す



- ③ シンプルな聞き方で率直な声を
ポストイットの色を分け、書いてもらう

ポストイットピンク
横内の「よいこと」「良いところ」

- みんな笑顔・仲良し・元気がある明るい
- 地域一体となって盛り上げられるパワー！
- 自然が豊かで空気がキレイ！
富士山が見えるのもうれしい！
- あいさつが多い！にぎやかでいつも楽しいです
- 田んぼが多くて風が気持ち良い。皆の仲が良い

ポストイットブルー
横内の「残念なこと」「残念なところ」

- 夜間の出歩きが多く怖い
- 道がせまい、意外と交通量が多く
ヒヤッとした時がある
- ショッピングモールなど、買い物する場所がない
- ポイ捨てやごみがたくさん落ちているところ
- ちょっとした公園がもっと増えたら
いいと思います

ポストイットイエロー
横内が「こんなまちになるといいな」

- 買い物する場所を多く、ショッピングモールが欲しい
- いつまでもみんなが仲良く過ごせる横内！
- 地域のイベントにたくさん人が参加しますように！
- 公園が多くなり緑豊かに！
- 自然を活かしてもっといろいろな名産品が
育てられるようなまちに！

活動事例 2

横内小学校コミュニティスクール/まち探検

ねらい

- 転居してきた家庭や外国籍の家庭も多く、コロナ禍の行動自粛が続いたことも相まって、子どもたちが自分たちが暮らす地域のことを知る機会が極めて少なくなっていました。
- コミュニティスクールの発足を契機に、「ふるさとカルタ」を活用して、地域にいろいろな良い所があることに気づいてもらうきっかけにしていこうと学校と地域との協働で企画・実施しました。

実施のポイント

- ① カルタ大会で知った場所を実際に見て・聞いて歩くことでより実感を持てるようにする
- ② 地域情報に詳しい方に分かりやすい説明を依頼する
- ③ 探検の結果として子どもたちが感じたことをまとめ、協力者へもフィードバック
- ④ 地域のことを語る立場/知る立場を通じて世代を超えた交流のきっかけになる
- ⑤ 歩くルート上のヒヤリ・ハット箇所を発見する機会になる



ふるさとカルタマップ上の見学箇所



